

ブレイキンにおける遊戯性について

藤田明史（関西学院大学）

2024年7月24日から8月11日にかけて夏季オリンピック大会がパリで開催され、ブレイキンが正式種目として行われた。本競技では男女各1種目が実施され、16名のBボーイ（男子）と16名のBガール（女子）がそれぞれ1対1で対戦した。選手はトップロック、フットワーク、パワームーブ、フリーズなどの要素を巧みに組み合わせ、交互に演技を行う。9名の審査員は、Technique（技術）、Vocabulary（表現）、Originality（独創性）、Execution（出来栄）、Musicality（音楽性）という5つの基準に基づき、競技と同時進行で採点する。ブレイキンを一般に広く普及させるという意味では、本大会は一定の成果があったといえる。

しかし、ブレイキンをスポーツとして扱うことに対して、議論が生まれたことも考慮しなければならない。オーストラリア代表のレイチェル・ガン（ダンサー名：RAYGUN）のパフォーマンスは、技術や表現の面で批判の対象となった。研究者でもある彼女は、自国のオーストラリアでのブレイキンの発展について、民俗学的視点から研究を行っている。彼女の論文では、ブレイキンがオリンピックで開催されることはオーストラリアでのブレイキンの普及の機会の増加に繋がると明示している。その一方でブレイキンをスポーツとして管理する運営団体から競技者への影響力が増すことへの懸念も示している。また、彼女はオーストラリアという国自体がブレイキンの盛んな国・地域とは隔離された状況にあると述べ、標準化・制度化された評価基準からあえて外れることで個性を見せる自国のブレイキンの可能性について検証している。ただし、いずれもオーストラリアに限った議論であり、ブレイキンの文化全体に言及しているわけではない。

もう一つの議論として、今回のオリンピックでは勝敗について観客と審査員の乖離が見られた。たとえば日本代表の大能寛飛（ダンサー名：HIRO10）は、すでに敗退が決まっていた予選3戦目のパフォーマンスの中で、倒立して全身を跳ね上げて、片手の肘だけで体ごと回転するという高難度の技であるワンハンドエルボーエアーを見せ、会場を大いに沸かせた。第1ラウンド、第2ラウンドともに相手にポイントを取られ敗退した試合後の会場で、審査に対するブーイングと大能選手への賛辞が寄せられたことからわかるように、観客と審査員の間には勝敗の相違点があったことは間違いない。失敗するリスクのあるパワームーブは、成功すればTechnique（技術）の項

目で点数が加算されるとしても、失敗すればExecution（出来栄）の項目で大きく減点される。確実な勝利を目指すならば、リスクのあるパワームーブを披露しない方がよいのではないかという消極的な発想が生じる。この疑問は、本来、遊びの延長線上で誕生し自由に踊られてきたブレイキンがスポーツ化することによって、典型的な型が評価されるダンスになってしまうという恐れを宿している。

いわゆるヒップホップカルチャーをルーツに持ちストリートでの「遊び」から広まったブレイキンは、今回のオリンピックを経てスポーツとして捉えられる機会が増えた。文化であるのか、スポーツであるかという分岐点を議論するに先んじて、まずはブレイキンの素地を明らかにすべきではないだろうか。

そこで本発表では、これまでの研究に見られる遊戯性の考察をブレイキンに適用することから始める。よく知られている通り、『ホモ・ルーデンス』の著者であるホイジンガは第一に遊びは自由な行為であると主張する。ホイジンガが主張するのは、遊びの成立には、遊び手が自分の意志によって、自発的に遊びに参加し、遊びの最中の行動を決定でき、そして何よりも、自分の意思で遊びをやめることができる自由が不可欠である、という点である。遊びとは何かを再考し、比較検討することで、ブレイキンの特徴を示す。

ブレイキンの歴史を顧みると、ブレイキンのバトルでは即興的な要素が強く、音楽に合わせてその場で動きを創り出す。この即興性は、遊びの重要な側面であり、予測できない展開や創造的な発見を生み出す。さらにブレイキンには特定の技術やスタイル、そして今回のオリンピックに限らず一定の評価基準があるが、それを遵守しながらも創造的なアプローチが求められる。この即興性とルールのバランスこそが、ブレイキンに遊びの要素を生み出している。

以上の考察からスポーツとしてのブレイキンの問題点を指摘し、最終的にブレイキンのどこに遊戯性があるかを明らかにする。事例を上げる中で、パリオリンピック閉会式で自然発生的に起こった即席のサークル（サイファー）についても触れる必要があるだろう。この事象にも言及することで、ブレイキンのみならずダンスにおける遊戯性の拡張を目指したい。

参考文献

Gunn, Rachael. Marie, Lucas. “The Australian breaking scene and the Olympic Games: the possibilities and politics of sportification”, *Global Hip Hop Studies*, vol.4(1), 2023, pp.39-56.